

Title	ワーレン・C・スコヴィル ユグノー教徒と技術の普及
Sub Title	
Author	片岡, 一郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.5 (1954. 5) ,p.574(110)- 582(118)
JaLC DOI	10.14991/001.19540501-0110
Abstract	
Notes	論文紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540501-0110

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文紹介

ワーレン・C・スコヴィル

『ユグノー教徒と技術の普及』

(Warren C. Scoville, "The Huguenots and the Diffusion of Technology" Journal of Political Economy August 1952 pp. 294-311, & October 1952 pp. 392-411)

ナント勅令が廢止されて、ユグノー教徒は經濟活動の自由を奪われた。そして一七二〇年までに、二〇萬人ものユグノー教徒がフランスから亡命した。このうち四萬人から五萬人がイングランドに定住し、五千人から一萬人がアイルランドに、五千人から七萬五千人がオランダに、三萬人がドイツに、二萬五千人がスイスに亡命した。残部は南アフリカや新大陸にまでも進出した。フランス經濟においてユグノー教徒が果たしていた役割は大きく、従つて亡命者のこのような績出がフランスの經濟發展にとつて非常な打撃となつたことはいふまでもない。しかし一方、難を避けて亡命した一部のユグノー教徒を中心に、ヨーロッパの各地で經濟活動が活潑化した。亡命者は移住先で歓迎され、特權を得て旺盛な經濟活動を容易に再現することができ

た。特にイングランドやオランダにおける活躍が目覚しく、たとえ一部にこれを妨碍する動きがあつたとしても、その進出を全面的に阻止するまでには至らなかつた。又アイルランドにおけるリンネル工業の急速な發展、ドイツにおける各種織物工業・ガラス工業・なめし皮の製造・金物工業・農業の發達、スイスにおける織物工業・金融業の繁榮は實にユグノー教徒の優秀な技術に負つた。従つて技術の普及を促進したという意味で、かえつてナント勅令の廢止はヨーロッパの經濟に好結果をもたらしたのであつた。

技術が普及する過程については從來少しも知られていない。時には外國職人の招聘によつて新技術が移入された。又旅行者が外國技術の導入に貢献したこともあつた。しかし迫害を避けて亡命したユグノー教徒が技術の傳播において果たした役割には遠く及ばない。事實ユグノー教徒は優秀な技術者のゆえに尊重され、イングランド、アイルランド、オランダ、ドイツ、スイスの各地で經濟活動の中心的存在となることができた。ここに紹介するスコヴィル氏の論文は、ユグノー教徒のこの偉大な業績を詳細に傳えたもので、結論として筆者は、「もし歴史家がナント勅令の廢止をもつて一七二・三〇年以降の西ヨーロッパにおける經濟發展のための主要な促進原因と看做すならば、あまりにも輕卒であらう。しかし同時に、その廢止から起つた技術の普及が全く無意味な要因であつたと考えるならば、思い違ひだらう」と述べているのである。

イングランドにおけるユグノー教徒

亡命教徒の数はイングランドにおいて五萬人にも達した。この亡命者は國王の保護を得て商工業に従事し、イングランドにおける技術の進歩に寄與するところ大なるものがあつた。リブソン教授の言葉によれば、亡命者の來住は「イングランドの工業史における第三の劃期的な出來事」であつたのである。

例えばイングランドにおける絹工業の發展に對しユグノー教徒が及ぼした影響についてであるが、その結果は意外に注目すべきものであり、來住を機にもはやイングランドはフランス絹工業の獨占市場ではなくなつてしまつた程であつた。ロンドン周辺の絹工業は隆盛をきわめ、フランス製品を驅逐せんとするばかりであつた。しかしこは織・金らん・しゆす・リボン等に關する限り、質の點でフランス品なみに製造するまでには至らなかつた。にもかかわらず、フランスの國內では種々不安も募り、例えばイングランド産の粗悪な製品になれて、フランス品のよさが忘れられてしまふのではないか、やすい外國品が輸入されて、國産品の質が切下げられはしないか、やがてイングランドでもフランス品なみのものができるようになるのではないかという懸念が起つた程で、實にユグノー教徒の優秀な技術の導入を契機として急速にイングランドの絹工業は繁榮に向ふことができたのであつた。

又リンネル工業の發展において亡命ユグノー教徒が果たした役割も大であつた。早くもイプスウィッチでは亡命者を中心に純

白の麻織物や帆布がつくられるようになった。そして次第にこの種の麻製品が自給されるようになり、麻工業においてもイングランドはフランスへの依存から脱することができた。従来イングランドは純白の麻織物や帆布をフランスからの輸入に負つていたので、このようにイングランドの市場がせばめられて行くことはフランスにとつて非常な苦痛であつた。そこでルイ十四世は亡命教徒を召喚してイングランドにおけるリンネル工業の急速な擡頭を阻止しようとしたが、應じようとするものもなく、フランス王の苦惱をよそに、イングランドにおいてリンネル工業の新しい芽は急速に伸長して行つたのであつた。

しかし亡命教徒の經濟的影響はこれだけにとどまらない。ユグノー教徒の來住を機に製紙技術は向上し、イングランドにおいても上質紙が製造されるようになった。これは主としてアングレームの周辺から來住した亡命者に負つた。又雨に丈夫な帽子を製造する技術が傳えられたのも亡命教徒によつてであり、イングランドではルアンやカンデベークからの來住者を中心に主としてロンドンでつくられていた。その他ガラス工業における技術の改良に、レースや手袋の製造に、寶石細工や金物細工の發達に亡命教徒が果たした役割も無視し得ない。

アイルランドにおけるユグノー教徒

亡命教徒の数はアイルランドにおいて一萬人にも達した。しかしその大多数は一旦スイス、ドイツ、イングランドの各地に

亡命してから來住したもので、實にアイルランド政府の熱心な保護が最大の魅力となつたのであつた。政府は來住者のために移住費を負担し、歸化を認めて優遇した。諸都市の多くも新來者を歓迎し、例えばウォーターフォードでは來住した四十家族のために家屋を提供し、税金を免除した程であつた。

このような有利の環境のなかにあつて、亡命者は縦横にその優秀な技術を活用することができた。アイルランドの經濟發展のためにユグノー教徒が果たした役割は實に顯著であつた。特にリンネル工業の發展に對する役割は大きく、ユグノー教徒の來住を機にリンネル工業はアイルランドにおける最大の産業となり、一七二七年にはアイルランドの全輸出貿易の三分の一を占めた程であつた。

アイルランドにおけるリンネル工業のこのように顯著な繁榮は實に亡命教徒ルイ・クロンメランの努力に負つた。クロンメランは一時オランダに亡命していたが、一六九七年國王の要請でアイルランドに來住した有能な技術者で、ピカルディの出身であつた。王はクロンメランに對し二百磅の年金を與えて王立のリンネル工場を管理させた。監督官として技術を指導するかわら、クロンメランは著述に従事し、又學校を設立して織物技術の普及や向上のために盡力した。従つてアイルランドにおけるリンネル工業の發展史上において亡命教徒クロンメランが果たした役割は重大であつたといわなければならない。とにかくアイルランドは優秀なリンネルの製造において他の

追隨を許さないまでになることができた。輸出の伸長がこのことを裏書きしている。例えば一七〇一年にアイルランドは一四、〇〇〇磅を輸出していたが、その後急速に増加し、一七一〇年には一〇五、五三七磅、一七二〇年には一二二、八九九磅、一七三〇年には二〇六、八一〇磅となつた。しかも上質なことにロンドン商人も驚歎した程であつた。又ドイツやスコットランドの商人のうちにも自己の製品をいつわつてアイルランド産と稱し賣るものが出て來たくらいである。

オランダにおけるユグノー教徒

亡命教徒はオランダに大舉して來住し、一七一五年にはその數七萬五千人にも達した。これは全く諸都市の熱心な歡迎策の結果というほかない。例えばアムステルダムでは亡命者のために家屋をやすく提供し、又三年間の税金免除・營業資金の無利子貸付を決定した。その他の都市もこれに倣つて亡命教徒の經濟活動を援助していた。新來者のこのような保護に對し一部では不満もあつたが、都市當局はむしろかかる不平分子を彈壓するという態度に出た。

都市當局の援助を得て、ユグノー教徒は容易にその優秀な技術を活用することができた。ハーレムやユトレヒトにおけるこはく織業の急速な發展は實にニームやツールから來住した亡命教徒に負つた。従來オランダはこはく織をフランスから輸入していたが、ユグノー教徒の來住を機に自給するようになり、同

時に價格の引下に成功した。質の點でもフランス品を凌駕する程で、こはく織の製造でオランダは亡命教徒の技術により「驚異的な成功」を収めることができたのであつた。

又ピロドやフランシスの製造技術を革新したという意味で、亡命教徒の功績は大であつた。ユトレヒトやハーレムに亡命したユグノー教徒を中心に上質のピロドやフランシ天がつくられ、外國市場でも意外に好評を博していた。このことは一部のフランス商人が自己の製品をユトレヒト製といつわつて賣つていた事實からも察知できるに違いない。

その他ハーレムにおける麻工業の發展に、ロッテルダムにおける羊毛工業・帽子工業の發展に亡命新教徒が果たした重大な役割も忘れ得ない。特に帽子製造に對する影響は大で、亡命教徒を中心に従來より四割もやすく市場に供給できるようになつた程であつた。

とにかく亡命教徒はオランダの經濟に重大な影響を與えた。しかし單に一時的な影響であつて、ユグノー教徒の來住を機に特に顯著な繁榮を示した織物工業も、一旦オランダの國民的關心が商業活動に向けられるようになるや、急速に衰退して行つたのである。ただしその間にあつて富裕な亡命者は巨大な資金を商業活動に投入していた。従つてオランダがヨーロッパ商業の一大中心となり得たのもユグノー教徒の來住に負うところ少なくない。

ドイツにおけるユグノー教徒

ドイツには三萬人のユグノー教徒が亡命した。亡命者の受け待遇は選舉侯により相違したが、概して優遇され、諸侯の保護を得て亡命者は旺盛な經濟活動を再現することができた。

特にプロシヤの大選舉侯フレデリック・ウイリアムが亡命教徒の來住を熱心に歡迎していた。他の諸侯も大方これに倣つた。新來者も亦その優秀な技術をドイツ經濟の繁榮のために進んで提供した。ベルリン、ブランデンブルグ、カッセル、エルランゲン、フランクフルト・アン・オーデル、ハレその他における羊毛工業の發展は實にこの亡命者に負つた。又ケニヒベルグにリボン工業を起したり、ブランデンブルグでキャラコの擦染やガーゼの製造を始めたのも亡命教徒であつた。その他マグデブルグにおける靴下工業の發展に、ベルリンを中心にした手袋工業の發展に亡命教徒が果たした顯著な役割も忘れ得ない。

しかし亡命教徒の活躍はドイツにおいても單に織物工業の面のみに限られなかつた。ノイシュタットにおけるガラス工業、ハーヌーにおける寶石細工の發展は實に亡命教徒に負う。又第十八世紀を通じてトランプの製造特權を持っていたのも亡命教徒であつた。

ユグノー教徒の來住を契機として工業面に起つたこのような變革と並んで、特にドイツについては農業に對する亡命者の影響が注目されなければならない。戦亂によつて衰退したドイツ

農業の繁榮は實にフランス農民の活躍に負つた。諸侯も亦土地・建築資材・種子を供與し、農業亡命者の進出を容易にした。かくて亡命者は新しい土地を開墾できたばかりではない。この農業亡命者によつて桑・大青・烟草・アザミ・アスパラガス・ハナキャベツ等が紹介され、ドイツ農業は好況期を迎えることができたのであつた。

スイスにおけるユグノー教徒

スイスには一時六萬人のユグノー教徒が亡命していた。しかしこのうち二萬五千人が定住するようになったに過ぎない。ただし他の諸國でみられるような特別の恩恵がスイスでは供與されなかつた。むしろ亡命者の定住は拒否されていた。例えば、エノヴァではユグノー教徒の來住を機に生活費が二倍になつたといわれ、又新來者が商業活動を獨占したといわれて、亡命教徒に對する非難が特にやかましかつた。市會はかかる不都合を除くため公廳會を十八回も開かなければならなかつた程であつた。他の諸都市についても事情はほとんど同じで、スイスに亡命したユグノー教徒は一般に白眼視されること甚だしかつたのである。

しかしかかる不利な境遇にもかかわらず、亡命教徒はスイスにおいても經濟の發展に非常な好結果をもたらした。特に金融業に對する影響が大きく、富裕なユグノー教徒が持込んだ巨大な資本によつてチェノヴァは中央ヨーロッパにおける金融の一

大中心となることができた。又商業の發展において亡命教徒が果たした役割も忘れ得ない。織物貿易に従事してこれを繁榮に導いたのも實に亡命教徒の積極的な活動に負つたのであつた。

(渡邊國廣)

商業従業者一人當產出量の變化

一九〇〇年—一九四〇年

“Changing Output per Person Employed in Trade, 1900 to 1940,” By R.R. Giffn (The Journal of Marketing, October, 1947)

戦後のアメリカ配給學界における一つの重要な問題は、配給能率をその量的基準においてとらえようとする試みである。配給組織論の發生事情からみても、配給の能率測定の方法を發見することは極めて重要であるにも拘わらず、今日なお吾々は満足すべき問題の解決をみていない。否從來は、少くとも今次大戦に至るまでは、此の問題が不當に輕視せられて來た感がないでもない。しかるに戦後此の問題は、配給理論家の關心の對象として大きくグローズアップせられるに至り、此處に紹介しようとするギフィン教授の此の論文も數多い此の面の研究におけるその一つである。

さて配給能率を測定しようとする場合においても、その方法は論者に依つて區々であり、そこに一定の型と云つたものを見格を乘じた生産物價値をおくのである。一方ギフィン教授が此の論文においてとられた方法も大體ホーストン氏の算出方式と同様であり、そのアウトプットには「配給サーヴィスの年生産量」を置いてゐるが、しかしその内容は殆んどホーストン氏の產出量と異なるところがない。以下のギフィン教授の論説の紹介は、従つて雇傭量を以つて配給能率を測定しようとする方法における問題點の所在を明らかならしめるに役立つであらう。

此の論説においてギフィン教授の意圖せるところが「商業機能遂行の必要から、雇傭せられた従業者一人當りの產出量における變化の大きさをとらえようとする」にあつたことは、その表題からして明らかであるが、従つて商業従業者數を正確にとらえることから出發しなければならぬのであるが、そのためには先づ商業の領域を嚴密に確定しておく必要がある。

合衆國國勢調査において「商業」人口として分類せられる人々の主要な機能は「財貨及びサーヴィスの販賣と云うそれである」。従つて機械製造會社に働くセールスマンは製造業にではなく商業に従事してゐるのであり、百貨店に雇傭せられてゐる自動車機械工は商業と云うよりむしろ修理サーヴィス業に包含せられるのである。即ち此の場合分類の基準はその職業的機能であつて、彼の所屬する産業の如何に依らないのである。しかし商業従業者數をより正確にとらえるに當つては「その仕事は商業機能全體の一部となつてゐるにも拘わらず、商業に分類せられることのない大きな人口集團」例えば「製造會社に

出すことは困難であるが、しかしこれを大きく二つに分けてみるならば、その一つは配給費をもつてしようとするものである。他のそれは配給雇傭量を基準にその能率を把握しようとするものである。従來此の面の研究の大部分は主として前者の方法に依つたのであるが、後者の方法に依る最近の研究中、特に注目すべきものはホーストン教授の研究と右のギフィン教授の研究である。ホーストン教授のそれは、一九四八年ハーヴァード・ユニバシテイ・ライブラリーから出版せられた「配給における能率分析の方法」(N.T. Houston, “Methods of Efficiency Analysis in Marketing,” Harvard University Library, 1948)なる研究であり、その後更に一九五〇年にはアルダーソン氏の論文(W. Alderson, “A Formula for Measuring Productivity in Distribution,” Journal of Marketing, April, 1945)に對する批判をふくめてブラック教授との共同執筆による論説J.D. Black and N.T. Houston, “Research in Resource—Use Efficiency in the Marketing of Farm Products,” (Harvard Studies in Marketing Farm Products, No. 1-H; Cambridge: Harvard University Press, 1950)が發表せられてゐる。さて此處でホーストン教授が展開せられてゐる方法は、能率を投入量と產出量との比率として理解し、インプットとしては配給に雇傭せられた雇傭數を、そしてそのアウトプットの側には、夫々の各年度において生産せられた財貨の物理的數量に生産者價

依つて雇傭せられてゐるセールスマンに命ぜられて仕事を
する必要がある。即ち吾々は商業者として示された数字に更に
「事務グループ」として分離せられた数字中からその若干を附
加することに依り一層正確な数字に接近することが出来るわけ
である。次の表はギフィン教授が以上の如き見地から算定せる
「商業雇傭推定数」を示している。

第一表 商業雇傭推定数 一九〇〇—一九四〇年
(單位 千)

年 度	國勢調査に よる商業従 業者数	商業従業者数 に附加せられ る事務労働者 推定数	總商業雇傭 推定数
一九〇〇	三〇八五	二九六	三三八一
一九一〇	三六三三	六八七	四三二〇
一九二〇	四二五八	一一四四	五五〇二
一九三〇	六〇八一	一六一〇	七六九一
一九四〇	—	—	九一八八

さて以上の如くして商業の雇傭量は一應これを右の如く規定
したのであるが、次に生じて来る問題は、商業の雇傭者の生産
する産出物とは果して如何なる性質のものであるか、更にはそ
の産出物を測定するその方法如何の問題である。

抑々商業の機能は生産の技術的過程が要求する不可欠な一面
であり、此處では商業は生産と相携えて一つの全體を構成して

いは無視しえないとしても長期についてこれをみるときは
「吾々の推測を誤らしめる程大きなものではない」と考
えられる。

問題となる第二の點は、製造過程を通過しない財貨の存在か
ら生ずる兩者間のずれである。即ち此處で今とり上げた指數は
製造過程を通過せる財貨のみを包含するにすぎないのであり、
製造過程を通過することのない、例えば農産物や礦産物の或る
物の如きは等しく商業活動の對象となり乍らその中に包含せら
れないと云う不合理が生じて来るのであるが、此の點について
はギフィン教授は「此等の生産物は總生産量の中比較的少量を
占めるにすぎず、その量は殆んど無視しうるに過ぎないもので
あらう」と。

さてそれでは以上の二點を別とすれば果して此の指數は十分
「商業サーヴィスの産出量」指數たりうるであらうか。否以上
の缺陷を別としてもなおそれは理想的な指數ではありえない。
何故ならば、たとえ製造産出量が同一にとゞまつたとしても、
その配給に要したる商業活動、即ち商業サーヴィスの産出量が
同一でありうると云う保障は此の場合何等存しないからであ
る。即ち或る事情の下においては或る財貨の配給にはより大な
るサーヴィスを必要とし、他の財貨は比較的僅かのサーヴィス
で配給しうるとごく個別的財貨のサーヴィスに對するウェイト
は夫々相違するのが通常である。従つて全體としての産出量が
かりに同一であつたとしても、その全體を構成する個々の財貨

いるものと考えられよう。従つてこの全過程より商業の機能の
具體的量を分離することは殆んど不可能と云わねばなるまい。
しかも此の商業の機能なるものは「一種のサーヴィスの性質を
有するものであり、これについては吾々はそれを測定する具體
的尺度なるものをもつていないのである」。而して此れを可能
ならしめる唯一の方法は、「商業サーヴィスの産出量は、商業
機能を遂行するために人々を雇傭する各々の企業を通過して流れ
て行く財貨の物理的量和密接に關聯して變化するものである」
との假説を導入することによつてはじめて與えられる。即ち商
業の産出量の一つの指標として製造産出高指數を用いることは
不可避的である。「サーヴィスを賣る此等の人々の産出量を測
定する尺度の存しない限り、それが製造せられた財貨の産出量
と密接に關聯して變化すると假定することは吾々當面の目的に
とつては絶對必要である」とギフィン教授はのべている。しか
しギフィン教授も此處で「商業活動」として「製造産出量」
との間の相關關係について、それらは果して全く平行的に運動
するものであるかに關して吟味を加える。此處で直ちに考えら
る問題として二つの點を指摘しているが、その一つは、商業活
動と關聯する生産量はその年度の産出量そのものではなくして
總産出量中消費に投ぜられた産出量に限られる。したがつて生
産量の全體が消費せられると云う保障の存しない以上、産出量
をもつて商業産出量の指標とすることには無理があると云はな
ければならない。がしかし此等兩者間のずれは、特に短期につ

の組合わせが相違するにつれて、「商業サーヴィスの産出量」
は異つて來ざるを得ず、かくして兩指數間のずれは決定的なも
のとなる。此の點こそはギフィン教授の此の測定方法における
最大の缺陷であり、例えばコックス教授の如きは、かくしてえ
られた結果は「配給の生産性については何等重要な發言權をも
つものではない、それが配給の生産性を測定しうるのは既に誤
謬として非難せられた假説の上においてある」と痛烈な批判
を加えている程である。勿論この點はギフィン教授自身よく認
識しているところであるが、しかし此の缺陷を克服する方法を
發見しえない現在、一應この指數で満足するの他はないとして
いる。教授は經濟調査局 (National Bureau of Economic
Research) に依り發表せられた製造工業産出量指數を利用し
て次の如き表を作成している。

第二表 商業従業者一人當り産出量指數
一九〇〇—一九四〇年

年 度	商業サー ヴィス産出量 指數	商業雇傭 數	一人當り産 出量指數
一九〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一〇	一六五	一二八	一二九
一九二〇	二三七	一六三	一四五
一九三〇	三〇五	二二七	一三四
一九四〇	四一二	二七二	一五一

右の表に明らかな如く此の研究において問題とせられた四〇年間を通じて「一人當りの商業サーヴィスの産出量」はかなりの増加を示している。配給の非能率は屢々指摘せられるところであるが、しかし一九〇〇年より一九四〇年に至る間において五一%の増加があつたことは、配給の能率が云々せられる場合には十分考慮せられなければならないであらう。しかしながら此の指數も常に上昇線を維持しえたわけではなかつた。特に一九二〇年代の一〇年間は右の表に示されている如く重大な後退を示した時期である。その理由は此の一〇年間に亘つて労働量の投入がそこから生産せられるサーヴィスをはるかに上廻つたと云ふ事情に求められよう。事實雇傭量は此の一〇年間に凡そ四〇%の増加を示したのであり、かゝる大きな増加は他の如何なる時期にもみられることのなかつたものである。

(片岡一郎)

次號 目次

中世リューネブルク井鹽の取引について 高村 象平
南北戦争・再建期における労働運動(一) 川 田 壽

資料

絹織業に於ける生産形態の發展と賃労働の形成過程 野 口 祐
林業史研究(二) 森林組合の性格とその成果について——
最近のソ連鐵道の現状と政策 金 丸 平 八
E・Hカー著「浪漫的亡命者たち」 加 藤 寛

論文紹介

飯 田 鼎

經濟學關係文献目錄

(昭和二十九年一月)

理 論 (學說史・經濟思想)

- * 經濟學原理 新訂 岸本誠二郎著 A 5 五五三頁 六八〇圓 日本評論新社
- * ケインズ經濟學研究 川口弘著 A 5 四〇五頁 五〇〇圓 中大出版社
- * インフレーション ハンセン著 鹽野谷九十九・宇梶洋司譯 A 5 三〇七頁 四八〇圓 東洋經濟新報社
- * 証券(經濟教養叢書) 福田敬太郎著 B 6 一六〇頁 一五〇圓 弘道館
- * 理論商品學 保田榮著 A 5 四一三頁 五〇〇圓 中大出版社
- * 原價計算と操業政策 福田誠一著 A 5 三一四頁 五八〇圓 森山書店
- * 商業經濟學 堀新一著 A 5 五六四頁 二四〇圓 中央經濟社
- * 經營學と人間組織の問題 馬場敬治著 A 5 三五四頁 五〇〇圓 有斐閣

經濟學關係文献目錄

労働・社會政策

- * 利益管理(現代經營選書) 古川榮一・松本雅男編 A 5 三一二頁 三八〇圓 如水書房
- * 公益企業政策 公益事業學會編 A 5 二七一頁 三五〇圓 森山書店
- * 財務監査(新會計學全書11) 片岡義雄著 A 5 二七七頁 三〇〇圓 世界書院
- * 賃金・生計費・生活保障(社會政策學會年報) 社會政策學會編 A 5 三二九頁 四五〇圓 有斐閣
- * 分業論と社會政策 伊藤迪著 B 6 二四七頁 二七〇圓 關書院
- * 労働問題(經營基礎講座5) 經濟同好會編 A 5 一八七頁 二五〇圓 ダイヤモンド社
- * 労働白書 一九五三年版 労働省労働統計調査部編 A 5 二四八頁 二五〇圓 労働法令協會
- * 全國労働組合名鑑 昭和二九年版 労働省労働統計調査部編 A 5 六二二頁 八〇〇圓 労働法令協會
- * 労働總覽 昭和二九年版 労働大臣官房總務課編 規外 七八〇頁 三〇〇圓 労働法令協會

歴史

一一九 (五八三)